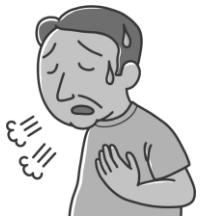
心不全について



心不全とは？

心不全は日本循環器学会によると､『心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気』と定義されています。

私達の心臓は、握りこぶし大の大きさで、全身に血液を送り出すポンプの働きがあり、血液には身体に必要なエネルギーを届けたり、余分な老廃物などを運ぶ役割があります。

つまり、心不全になると心臓が血液を送り出すポンプ機能が低下することによって、全身に十分な血液を送り出せなくなることで、息切れやむくみなどの症状が起こります。

もっと心不全について知りたい方へ

インターネットで『心不全のいろは』と検索すれば、日本循環器協会による心不全総合情報サイトを見ることができます。今回紹介しきれなかった、心不全の原因や症状、支援制度など様々な情報が紹介されていますので、家族皆さんでご覧になってはいかがでしょうか。

心不全の総合情報サイト

心不全のいろは

https://heart-failure.jp/

心不全の診断について

息切れやむくみなどの症状があれば必ずしも心不全というわけではなく、医師による診断が必要となってきます。心不全かどうかを診断するためには、胸部Ｘ線検査、心電図検査、心エコー検査、血液検査など様々な検査を行います。

胸部Ｘ線検査では心臓の形や大きさなど、心電図検査では心不全に関連する心筋梗塞や不整脈など、心エコー検査では心臓のポンプ機能など、血液検査ではＢＮＰというホルモン量などを調べるといった様々な検査を行い、総合的に診て判断されます。

心不全の治療方法

こうした心不全の治療には心臓の働きが急激に悪くなり激しい呼吸困難を伴う急性心不全や、心臓への負担がかかり続けることで症状が徐々に進行する慢性心不全とで治療方法が異なります。

急性心不全では、生命を救うことを治療目標として、酸素投与や、心臓を力づけるための強心薬、体の水分を取り除くために利尿薬などを使用し、血液の循環を良くします。

一方、**慢性心不全**では、症状の進行を防ぐために、薬物治療や手術や機械を使用することがあります。薬物治療では心臓を保護するための薬として、ＡＣＥ阻害薬、ＡＲＢ、ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬、心臓を休ませてあげる薬としてはβ遮断薬、合併症のリスクを減らす薬としてＳＧＬＴ２阻害薬、むくみの改善として利尿薬、心臓を力づける薬として強心薬などが使われます。

手術や機械による治療としては、心臓カテーテル治療、冠動脈バイパス術、ペースメーカー、カテーテルアブレーション、補助人工心臓、心臓移植などがあります。

心不全治療中の方へ

これらの心不全治療以外にも、食事や運動など日常生活で気をつけるべきことを取り組むことで心臓への負担を和らげる事も可能です。

食事であれば、高血圧やむくみの原因となる塩分を控えめにして、１日６ｇ未満の摂取とし、塩分控えめのものを選ぶようにします。

運動に関しては、過度な運動は心臓に負担をかけてしまいますので、医師からの注意点を守りながら、歩いたり、椅子に座って手足を動かしたりと症状に合わせた軽い運動から始めると良いです。また日常生活では、喫煙やお酒の飲み過ぎは心不全を悪化させる原因となりますので気をつけましょう。

診療予約はこちらから

電話予約：0799-62-5566（診療時間内）
ネット予約：https://ssc6.doctorqube.com/soyama-clinic/（24時間対応）
＊携帯電話からは右のＱＲコードからでも予約できます＊